

団体の活動の社会への発信について

前回までの会議で、皆さんからいただいた意見を事務局でまとめました。
今後の「障害者施策審議会」に報告し、県として何が出来るかを考えます。
この意見のほかに、2・3について追加したい意見があれば教えてください。

障害当事者部会でいただいた意見

1 情報発信をする際の工夫・効果

- 相談を受ける際に直接会う機会を作ることで、情報発信をしている団体のWEBサイトにアクセスが増えている。
- 当事者向けの相談サロンなどを開催し、団体の情報を直接発信することで、団体への加入者が増えている。

2 現在の団体活動で困っていること

- 障がい理解や団体活動の情報を載せたチラシ・DVD等を作成して、配ったり置いたりしているが、手に取ったり活用してもらえない。
- 虐待防止や差別解消について、施設訪問等をして伝えているが、コミュニケーションをとることが難しい人にどう伝えるか課題がある。
- 会員、支援者・ボランティアの人数が減っている。高齢化も進んでいる。
- 団体の活動ができる場所が少ない。

3 今後の団体活動に必要なと思うこと

- 情報共有や協力のため、当事者同士の横のつながりが必要。
- 団体活動を支援する「ボランティア同士」や、ボランティア活動をつなぐ「ボランティアセンター同士」など、支援者同士がつながることも必要。
- 年代を超えて一緒に活動するだけではなく、若者は若者同士など、年齢層で適した場所で活動したり、活動先を紹介しあうことも必要。
- 発信する情報は、なるべく噛み砕いて分かりやすく伝えることが必要。